

噴水

図書館について

T M

図書館は授業の味方です。授業をするにあたり自分が調べをするときに利用するのはもちろん、授業に関する推薦図書のコナーを作っていたり、検索の仕方を生徒にガイダンスしていただいたり、何かにつけてお世話になりました。

実際、松蔭に来てから「〇〇について授業をするんですが、△△のコナーを作ってもらえませんか」とお願いすることが数回ありました。

さらに松蔭では国語の授業で年間5冊の課題図書があり、それを国語の教員が決める必要があります。担当教員はその時々を生徒の状況に合わせて「これを読んでほしい」という渾身の一冊を絞り出しますが、時にはアイデアが枯渇してしまうこともあります。そんなときに「〇〇についての本で、中学〇年生向きの本をリストアップしてもらえませんか」とお願いすると、なんと魅力的なリストが返ってくるではありませんか。自分では選べないような本もいくつか入っていて、ついつい自分が楽しく読んでしまうこともあります。

このような支えがあったからこそ、国語の授業は教室のなかだけで完結せず、図書館へと自然につながっていくことがあったように感じます。授業で扱った作品に興味をもった生徒が、休み時間や放課後に関連書を探しに行く姿を見ることがありました。自分で本を選び、ページをめくり、言葉と向き合う経験は、テストの点

松蔭中高図書館
広報部 (眞鍋)
library@shoin-jhs.ac.jp
〒657-0805
神戸市灘区青谷町3-4-47
tel.078-861-1105
fax078-861-1887



数だけでは測れない大切な学びだったと思います。

また、調べ学習やレポート課題の際には、図書館でのガイダンスが生徒の大きな助けになりました。インターネット検索に慣れた生徒にとつて、書籍を使って情報を探すことは決して簡単ではありません。しかし、司書の方から検索の方法や本の選び方を教えていただくことで、調べるといふ行為そのものへの理解が深まり、学習への取り組み方にも変化が見られました。GSは中学一年生にガイダンスをしていたのですが、中学三年生や高校二年生でも忘れた頃に繰り返し返すと、検索スキルの重要性を理解できるようになるかもしれません。

図書館は、静かに本を読む場所であると同時に、生徒一人ひとりの関心や成長を温かく見守ってくれる場所でもあります。放課後に補習をしたり、新刊コーナーで面談したりしたこともあります。そうして、読書が得意な生徒には次の世界への扉を、苦手意識のある生徒には無理なく踏み出せる入口が用意されています。その積み重ねが、生徒の中に「本は自分の味方である」という感覚を育てていたように思います。

情報があふれる時代だからこそ、目的に合った本と出会える図書館の存在は、これからもますます重要になるでしょう。国語教育を支える現場の一員として、これほど心強い味方はありません。これまで多くの場面で支えていただいたことへの感謝とともに、図書館が今後も授業と生徒をつなぐ大切な場所であり続けることを願っています。

Words, words, words.

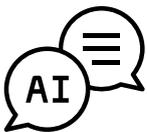
『ハムレット』第二幕第二場より

Y M

言葉を使うのは、人間だけではありません。昨年出版された鈴木俊貴著『僕には鳥の言葉がわかる』には、シジュウカラが単語だけでなく、文の形で意味を伝え合っていることが紹介されています。しかも、ほかの種類の鳥ともコミュニケーションをとっているというのです。ページをめくりながら、「言葉って何だろう」とあらためて考えさせられました。

言葉をあやつる存在といえば、いま身近なのは生成AIかもしれません。質問すれば、まるで友達のように答えてくれる。レポートのヒントをもらったり、調べものの手がかりを得たりしている人もいます。図書館でカウンタに立っていると、「AIで調べたんですが……」と相談に来る生徒さんも増えてきました。

けれども、AIはときどき、もっともらしい文章で間違った情報を示すことがあります。以前、ある小説についてたずねてみたところ、実在しない登場人物やありえないストーリーが書かれていたことがありました。とても自然な文章だっただけに、うのみにしてしまいそうになります。



だからこそ、図書館では「ほかの資料でも確かめてみよう」と声をかけています。本やデータベース、複数の情報を見比べることが、確かな理解につながるからです。

また、海外ではAIとのやり取りが深刻な問題につながったとして、裁判になっている例もあります。日本の調査では、「つらい気持ちを相談する相手」として生成AIを選ぶ若い人が少なくないという結果も出ています。AIは気軽に話せる相手かもしれませんが、でも、声の震えや表情の変化までくみ取ることはできません。

冒頭の『ハムレット』の台詞は、「中身の無い言葉」を皮肉る場面です。けれど、本来、言葉には力があります。だれかに届き、だれかを支える力です。図書館は、本と人、人と言葉をつなぐ場所です。もし迷ったり、不安になったりしたときには、AIだけでなく、どうか身近な大人にも声をかけてください。もちろん、図書館でも待っています。

言葉は、ときにあふれるほど私たちのまわりにあります。そのなかから、本当に自分を支えてくれる言葉を見つめる力を、いっしょに育てていけたらと思います。



新任の先生に質問

- (1) 本は月にどれくらい読めますか
- (2) どんなジャンルのものが好きですか
- (3) いま、何か読んでいらっしゃるんですか
- (4) 学生時代に読んだ本は？
- (5) 印象に残った本、人生を変えた本はありますか
- (6) 好きな作家・アーティストは
- (7) 感動した映画・ドラマは何ですか
- (8) 生徒にお薦めの本、音楽・映画を教えてください
- (9) 最後の図書館について一言お願いします

MK 先生

- ①2か月に1冊程度しか読めていないのが現状です。読みたいと思っている本はたくさんありますが、なかなかまとまった時間が取れず、少しずつ読み進めています。
- ② 小説を中心に、ジャンルを問わず読みます。忙しい時期には、短時間で読み切れる短編小説を選ぶことが多いです。
- ③ 神田澤さんの『真夜中のウラノメトリア』という140字ぴったりの超短編小説集を読んでいます。
- ④中学生の頃は、自身が部活動に熱中していたこともあり、スポーツをテーマにした小説をよく読んでいました。高校生以降は競技力の向上につながるような本を読むことが多く、特に、河森直紀さんの『ピーキングのためのテーパリング』は、試合への調整力を高めるきっかけになりました。
- ⑤ 森岡毅さんの『苦しかったときの話をしようか』という本が印象に残っています。将来や進路に悩んでいた時期に読み、自分と向き合うきっかけになりました。
- ⑥邦ロックが好きで、Saucy Dog、My Hair is Bad、マカロニえんぴつ、ヤングスキニー、クリープパイプなど多くのアーティストの音楽をよく聴いています。
- ⑦つい最近、『栄光のバックホーム』を観に行きました。横田選手のあきらめない姿に何度も心を動かされました。
- ⑧『おとなになるのび太たちへ』という本をお薦めします。夢を叶えた10人の大人が、それぞれ『ドラえもん』のエピソードを通して、夢を叶えるために人生で大切なことを教えてくれる一冊です。
- ⑨中高生の頃は、図書館を利用することがほとんどありませんでした。大人になった今、時間に余裕ができたなら、今度は図書館を利用したいです。



RU 先生

- ①最初から最後まで読むのは2冊くらいです。そのほか授業準備等のために、ちょこまかたくさん読んでいます。
- ② 小説です。
- ③古内一絵さんの『マカン・マラン』を読んでいます。
- ④星新一さんや東野圭吾さんの本を読んでいた。
- ⑤山口里子さんの『イエスの譬え話 いのちをかけて語りかけたメッセージは？』です。イエスさまのたとえ話をこう解釈できるのか、と新たな視点が与えられる本です。授業準備のためにもよく読んでいます。
- ⑥フェルナンド・ボテロさんという方の絵が好きです。磔刑のイエスさまは多くの場合、やせ細って描かれることが多いのですが、ボテロさんのイエスさまはパンパンで不思議な魅力があります。
- ⑦映画『この世界の片隅に』です。
- ⑧⑦にあげた『この世界の片隅に』はぜひ見てほしいです。戦時下においても、現代の私たちと何ら変わらない人間の営みがあったということに気づかれます。そして原爆投下が二度と繰り返されてはならないという思いに、改めて立たされま
- ⑨ この一年、大変お世話になりました。ありがとうございました。

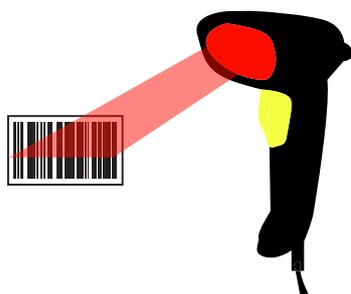


CP 先生

- ①月単位では本は読んでいません。年に1, 2冊読む程度です。
- ② ミステリーが好きです。
- ③ いま読んでいる本はありません。
- ④ 『君の臍臓をたべたい』
- ⑤ 韓国の作家であるキム・スヒョンさんのエッセイの、『頑張りすぎずに、気楽に』という本は、コロナ禍で過ごした大学時代に自分と向き合うきっかけをくれました。
- ⑥作家は湊かなえさん。アーティストはK.popアイドルのTWSです。
- ⑦ 家族愛がテーマの作品によく胸を打たれます。王道なものでいうと、ディズニー映画の『リメンバー・ミー』や『ミラベルと魔法だらけの家』。
- ⑧『High School Musical』です。3部作になっていますが、どのシリーズのどの歌も素晴らしくておすすめです。

⑨何度か訪れる機会がありましたが、話題になっている新しい本達が沢山あったり、雑誌やレシピ本など幅広いジャンルのものが充実していたことに驚きました。今年目標として、本をたくさん読んでみようと思っているので、ぜひ一緒に足を運びましょう！

図書館の春休み貸出は三月九日から四月八日まで、十冊借りられます。



「蔵書点検(バーコード読み取り)でピントを合わせるのに苦労したが、面白かった。一つの本を図書館に出すだけで皆さんの過程があつて本の扱い方を改めようと思った」

NA

「レファレンスビギングを仲間と協力して解くことができて楽しかったです」

FM

「本が好きで、興味があつて、なかなかできない体験ができて面白かったです」

SE

「思っていたよりもやる事があつてたいへんな仕事だなと思つた」

NK

高3司書体験参加者の声
今年の参加者四名で「はと時計2月号」の表の図書案内を書いてくれました。